

平成 26 年度 第 1 回 マザーレイクフォーラム運営委員会 議事録

| | | |
|------------------------|---|-------------------------------|
| 日時 | 平成 26 年 (2014 年) 4 月 23 日 (水) 18:15~20:00 | |
| 場所 | 滋賀県庁北新館 5-A 会議室 | |
| 出席者 (50 音順、 敬称略) | 石河 康久 | 滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課 |
| | 井手 慎司 | 滋賀県立大学環境科学部 |
| | 大山 明彦 | 滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課 |
| | 川崎 竹志 | 滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課 |
| | 川端 隆弘 | 公益財団法人淡海環境保全財団 |
| | 北田 俊夫 | NPO 法人びわこ豊穰の郷 |
| | 小松 直樹 | 滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課 |
| | 中野 隆弘 | びわ湖エコアイデア倶楽部 |
| | 中村 満 | 湖南・甲賀環境協会/NPO びわ湖環境 |
| | 南部 陽子 | 滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課 |
| | 野田 晃弘 | NPO 法人蒲生野考現倶楽部/琵琶湖・淀川流域圏連携交流会 |
| | 平山 奈央子 | 滋賀県立大学環境科学部 |
| | 廣田 大輔 | 滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課 |
| | 藤田 知丈 | くらシフト工房 |
| | 松沢 松治 | びわ湖の水と地域の環境を守る会 |
| | 三和 伸彦 | 滋賀県化学・環境行政職員同友会 |
| 村上 悟 | NPO 法人碧いびわ湖 | |
| 森 俊彦 | 滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課 | |
| 望月 孝幸 | 滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課 | |

※今回欠席（敬称略）：伊吹美賀子（湖南流域環境保全協議会）、小林泉（滋賀県理事員）、佐藤祐一（琵琶湖環境科学研究センター）、辻博子（一般社団法人滋賀グリーン購入ネットワーク）、堀彰男（滋賀県魚のゆりかご水田プロジェクト推進協議会）、山口美知子（滋賀地方自治研究センター）、渡辺維子（元：公益社団法人滋賀県環境保全協会）

今回の決定事項（要約）

- ・ 今年のびわコミ会議で午前中の 5 件の発表について確認した。また午後のワークショップの 10 テーブルのうち 8 テーブルの担当を確定し、残り 2 テーブルは公募とした。
- ・ プレエクスカーションの「プレ」を取り、びわコミ会議後の日程も OK とした。エクスカーションは、びわコミ会議の午前の発表または午後のワークショップの各テーマに則した現地視察または体験ができるプログラムに限定し、その他の登録団体のイベントは「連携事業」と位置づけることとした。
- ・ 5 月中旬までに午前の発表・午後のワークショップおよびエクスカーションの各テーマ・内容・発表者等必要な情報を集約し、5 月末にはチラシの印刷を完了する。

佐藤が欠席のため、議事進行は井手が行った。

1. 自己紹介

年度が変わり、県職員の異動等により新しい顔ぶれが多かったため、各自簡単な自己紹介をした。

2. 各ワーキングからの進捗状況の報告

新設された「事務局ワーキング（WG5）」を含め、5つのワーキング（WG）について、関係者から前回の運営委員会以降の状況報告があった。報告を受けた議論の概要は以下の通りである。

(1) WG1 マザーレイク曼荼羅(報告者:望月)

- ・ 作成した曼荼羅図をサイトで公開した旨をエントリー団体にメール連絡を行い、併せて今年度のびわコミ会議への参加を促した。

(2) WG2 Web サイト(報告者:望月)

- ・ MLFの基本情報を網羅したWebサイトを開設し、ひとまず形は整った。
- ・ メインで担当していた村上（浩継）が異動により抜けたため、今後は後任の藤田を中心にサイト運営を進めていく。特に、登録者数の増加、「みんなの情報交換ページ」の活用促進、FB（フェイスブック）との連動強化に力を入れていく。

※ マザーレイクフォーラム公式Webサイト URL <http://mlf.shiga.jp/>

(3) WG3 地域連携(報告者:村上(悟))

- ・ 多様な団体と地道にコミュニケーションをしながら地域連携のしくみを具体的に構築していくには、相当なマンパワーとお金が必要になることから、平山と協力して研究費助成金の申請を準備している。

(4) WG4 びわコミ会議(報告者:井手)

1) 午前中の発表について

- ・ 発表は以下の5件についてそれぞれ依頼し、基本的に了承を得ることができた（ただし、発表者は未確定）。
 - kikito・平和堂・県の協働事業について（調整役＝村上(悟)）
 - びわこ豊穰の郷によるオオバナミズキンバイ除去大作戦について（調整役＝北田）
 - 家棟川でのTOTOとの協働事業について（調整役＝松沢）
 - びわっこ大使からの「KODOMO ラムサール」報告（調整役＝井手）
 - 三河湾プロジェクトについて（調整役＝南部）
- ・ 事務局WGが統一フォーマットを作成し、それを埋める形で、各団体の発表テーマや発表者などチラシに記載する必要がある情報を5月中旬までに提出していただく。5月中旬までに確定できない事項があれば、「未定」「変更の可能性あり」といった但し書きで対応する。

2) 午後のワークショップについて

- ・ ワークショップのテーマ（テーブル）数は、会場の広さを考慮して昨年と同じ10とする。
- ・ 各テーブルを担当していただく団体候補に依頼した結果、以下の8団体については了承（「前向きなお返事」を含む）を得ることができた。
 - びわっこ大使（子どもたちが進行役を務める）（調整役＝井手）

- チーム一滴（調整役＝井手）
- 白鳥川の景観を良くする会（調整役＝佐藤）
- MOH 通信（調整役＝佐藤）
- 京大奥田さん（調整役＝佐藤）
- 企業の CSR 関連のテーマ（調整役＝中村）
- BY ネット（調整役＝野田）
- 地域連携テーマ（調整役＝村上(悟)）
- ・ 残り 2 テーブルについては、現時点では担当を決めず、公募する。
（桂川の仁枝さんに昨年の台風 18 号関連または桂川クリーン大作戦（河川清掃）といったテーマ
でお願いする（テーマは今後調整する）。）
- ・ 事務局 WG が統一フォーマットを作成し、それを埋める形で、各テーブルの討論テーマや進行役
などチラシに記載する必要がある情報を 5 月中旬までに提出していただく。5 月中旬までに確定で
きない事項があれば、「未定」「変更の可能性あり」といった但し書きで対応する。

3) エクスカーション

- ・ 「プレエクスカーション」の「プレ」を取り、びわコミ会議以降の日程での開催も OK とする。
- ・ 公募で集めた関連イベント情報を全て「エクスカーション」と呼ぶと誤解を招くおそれがあるこ
と、チラシに掲載するイベント情報を今から公募で集めるのはタイミング的に無理があることか
ら、びわコミ会議の午前で発表する団体および午後の各テーブルを担当する団体が開催する、そ
れぞれのテーマに則した内容の事業・イベントだけを「エクスカーション」と位置づけてチラシ
および Web サイトに掲載し、それ以外のイベント情報については「連携事業」という位置づけで
随時 Web サイトで発信していく。
- ・ エクスカーションの受け入れが可能か、午前の発表団体および午後の各テーブル担当団体にそれ
ぞれ確認する。視察・見学だけでなく、作業を伴う体験イベントでも構わないが、たとえば豊穰
の郷のオオバナ除去作業のようなイベントについては、一般参加者とは別枠で見学のみ参加に
ついては受け入れ団体側で対応していただけるとありがたい。
- ・ 事務局 WG が統一フォーマットを作成し、それを埋める形で、各エクスカーションのイベントタ
イトルや日時・場所・内容・問合せ先などチラシに記載する必要がある情報を 5 月中旬までに提
出していただく。5 月中旬までに確定できない事項があれば、「未定」「変更の可能性あり」とい
った但し書きで対応する。
- ・ 「体験・発見エクスカーション」「びわコミ会議エクスカーション」等、ネーミングを工夫する。

4) 広報スケジュール

- ・ 6 月に実施されるエクスカーションもあることから、チラシは 5 月末に印刷を完了し、6 月頭には
配布できる状態にする。チラシに必要な情報の集約の段取りや、紙面の内容詳細・デザインは、
事務局 WG に一任する。
- ・ 連携事業の情報については、チラシの完成に関わらず情報が届き次第 Web で随時発信していく。
- ・ エクスカーションの参加者には、ぜひびわコミ会議にも参加してワークショップで現場を見てき
た視点で議論に加わっていただきたいので、各エクスカーション会場でびわコミ会議への「招待

状」を配布してもらった案があった。

(5) WG5 事務局(報告者:望月・村上(悟))

- ・ コーディネーターとして今月から藤田が新たに加わった。
- ・ MLFの全体コーディネートを含む事務機能を担う事務局WGを設置することとした。WGメンバーは川端・佐藤・藤田・村上(悟)・望月・森に井手を加えた7名とする。
- ・ 4/17に初回WG会議を行った。(当日の議事メモを配布)
- ・ 事務局WGの主な役割は、(1)MLF運営委員会の運営、(2)びわコミ会議の開催業務、(3)Webサイトの運営、(4)多様な主体とのつながりの促進、(5)財源の確保、の5項目。
- ・ 特定の個人に負担が著しく偏重しないよう、事務局WGメンバー内で常に情報を共有しながら、業務内容を役割分担し、これまでやりたいと思いながら手を付けられていなかったこと(外部資金調達など)にも積極的に取り組んでいく。(役割分担表(案)を配布)

3. その他

- ・ 次回の運営委員会は6月中旬に開催予定。

